

2026年度日系社会研修（多文化共生推進/日系協力型）日系サポーター コース概要

No	8
所管センター	中部
分野	教育
研修コース名	スポーツを通じて学ぶ多文化共生
受入人数	2
受入時期	上半期
来日日	2026年7月15日（水）
帰国日	2026年12月20日（日）
提案団体	学校法人ムンド・デ・アレグリア学校
提案団体 ウェブサイトアドレス	www.mundodealegria.org
研修員必要資格	スポーツ経験者
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	ポルトガル語・日本語・英語・スペイン語
日本語能力 （JLPT目安）	不問
ポルトガル語 スペイン語能力	ポルトガル語（母語）またはスペイン語（母語）
研修目標	1. スポーツを通して、南米の子どもたち・日本人との交流を深めることによって、多文化共生の問題・課題を把握する。 2. 在日する南米の子どもたちの問題・課題を把握する。 3. 本校の日本語授業等を受講することにより自身の日本語能力を向上させる。
期待される成果 （習得する技術）	1. 多文化共生に対する問題・課題の把握 2. スポーツ指導能力の向上 3. 在日日系人の子どもたちの現状・課題の把握 4. 自身の日本語能力向上 5. 日本語能力試験合格
研修計画（内容）	1. サッカー・バレーボール指導者の指導アシストをすることで、指導法を学ぶ。 2. 自身の経験のあるスポーツを指導する。 3. 日本人とのスポーツでの交流活動に参加する。 4. 日本語授業を受講する。 5. 12月に実施される日本語能力試験を受験する。
研修実施の背景／日本国内の中 南米出身者のコミュニティにお ける現状、多文化共生等課題解 決を推進するにあたっての問 題・現状等	浜松には南米からの多くの定住外国人（出稼ぎ労働者）の子どもたちが在籍しているが、彼らの教育においては、多くの問題・課題がある。日本の小・中・高等学校に在籍している子どもたちが多いが、彼らは、日本語も全くわからない状態で来日し、そのまま日本の学校に編入し、教科授業を日本語で受けなければならないため、学齢期に必要な学習を積み上げることが非常に困難である。また、日本の学校に在籍している子どもたちは、家庭でも学校でも母語の学習する機会がほとんどない。結果、日本の中学校を卒業する頃には、長く日本の学校に在籍しても、日本語は会話程度は話せるが、文章読解、漢字能力は小学校低学年程度となるだけでなく、自身の母語においても読み書き能力が極端に落ちるという「ダブルリミテッド」となる生徒が少なくない。入管法改正後、多くの出稼ぎ労働者が来日してから30年以上経つものの、子どもたちへの適切な教育システムは未だ進まず、ダブルリミテッドの子どもたちが増え続けているのが現状である。不就学・不登校児童・生徒も多い。また、発達障害・学習障害のある者も少なくない。さらには、学齢期以降も教育施設や社会と接点を持たず、引きこもり、孤立している外国人も少なくない。その結果、深刻な問題なのが、日本社会に馴染めない、精神面で困難を抱えている、学習へのモチベーションが上がらない、社会と関わりを持つことを拒んでしまう子どもたちが想像以上に多いということである。
本研修実施の意義 応募者への裨益効果	今年度、本校では「スポーツで心と体の居場所作り」プロジェクトを実施する。学校に馴染めない・いじめにあっている・不就学・不登校・発達障害・引きこもり他、生きづらさを感じている子どもたちに、スポーツで、集い、仲間を作りの場を提供し、心と体を元気にして社会参加・学習へのモチベーションアップに繋げる。そして、スポーツを通して、日本の同年代の若者や地域住民と関わり、相互理解を深める取組を実施する。JICA研修員が本プロジェクト、及び、本校の体育の授業に関わることで、以下の効果が望める。 1. プロジェクトにおいて、サッカー・バレーボールのプロのコーチを招聘し実施する取組に研修員が参加することで、プロの指導者のもと指導のノウハウを学べ自身の今後のキャリアに生かすことができる。 2. プロジェクトに参加する子どもたちや本校の児童・生徒と関わる時間を多く持つことで在日している南米からの子どもたちの問題・課題を把握することができる。 3. 本校と連携体制を構築している教育施設・団体・地域住民他、及び、プロジェクトで今後連携をしていく団体他と交流を持つことができ、多文化共生についての学びを深めることができる。
期待される国内の中南米出身者 のコミュニティへの貢献（活 動）	1. スポーツ指導、或いは、指導アシストすることによって、子どもたちと接する時間を持って、母国語で会話することにより、子どもたちの精神的な安定を得ることに寄与する。 2. 日本人コーチの指導をサポートすることで、スポーツを通じて、コーチと研修員が互いに異文化理解・多文化共生を実践していくことができる。 3. 定住外国人の子どもたちは日本生まれ日本育ちの者もあり、自身の母国についてよく知らない者も少なくないため、母国の今についての講話してもらうことで、子どもたちが母国について知る機会が持てる。
応募希望者への特記事項	ポルトガル語・スペイン語能力に関しては、どちらかの言語が母語であること